



## 人権集会がありました

5日(火)に人権集会がありました。最初に各学年の児童から学年の人権標語の発表がありました。そのあと代表委員からLGBTQについて発表がありました。LGBTQはニュースで取り上げられるなど、今や多くの人々が認識するようになりました。人権集会では、LGBTQについての説明と、これに関わる物語の読み聞かせがありました。性に関わる話でしたので、低学年の子どもたちには難しい内容であったかもしれません。代表委員の発表の後にした校長の話を紹介します。(前置きは省略します。)



今からある学校で起きたこととお話しします。自分ならどうするかということを考えて聞いてください。

ある学校の6年生の運動会における出来事です。運動会で学級対抗のリレーの競技がありました。走るのが得意なAさんのいる学級は、最初は調子よく1番で走っていましたが、途中から他の学級に抜かされて、1位にはなれませんでした。Aさんの学級には走ることが苦手なBさんがいました。Aさんは、1位になれなかったことがくやしかったのか「Bのせいで負けた」とみんなに聞こえるような声で言っていたそうです。Bさんは、一生懸命走っても人より速く走れないことを自分でも分かっています。Aさんの言葉が聞こえてきて、Bさんはとても悲しい顔をしていたそうです。Aさんのように、負けて悔しいという気持ちが起こることはあると思います。しかし、その心の声を相手にストレートにぶつける行為は、決して良い行動とは言えないと思います。その言葉でBさんが傷ついたら、これはいじめです。

Aさんが「Bのせいで負けた」と言った時に、同じ学級のCさんがAさんに向かって言いました。Cさんは何と言ったのでしょうか。

Cさんは「Bさんの分も自分たちがもっと早く走ればいいでしょ。」と言ったそうです。Aさんはこの後、何も言えなかったそうです。人には得意なこと、苦手なことが必ずあります。それを責めても仕方ありません。Aさんのような行動をとっている人を見たら、皆さんはどうしますか。この話では、このCさんの一言が、いじめが大きくなるのを防いだのだと思います。反対に、もしCさんが「そうだ、そうだ」とAさんの言葉にのっていたらいじめは広がっていったでしょう。いじめの芽に気付いたら「それは言いすぎだよ」とか「その言い方はおかしいよ」と言える子が増えてくれば、責めている人も自分がしていることはよくないことだと分かると思います。

南小の中にCさんのような人がたくさん増えたら、南小はもっともっと良い学校になると思います。

## 第3回学校運営協議会がありました

11月22日に第3回学校運営協議会がありました。今回の議題は、学校保健委員会の発表を受けて、本校の子どもたちのゲーム遊びについて協議しました。本校の実態を説明した後に、委員の方から意見をもらいました。協議された意見をいくつか紹介します。



- ・子供のゲームをしたいという要求を抑えるのは難しい。ゲームは達成感を簡単に得ることができる。違うところに子供の力を向けられるとよい。
- ・子どもたちにゲーム以外の趣味のようなものがあるとよいのではないか。
- ・ゲームをやりすぎないようにするためには、学校が読書や工作、美術等、それぞれの子供がゲームよりも夢中になれるものを示せるとよい。
- ・ゲームを規制するというのは難しい。小学生ぐらいだとゲームで時間を無駄に使っているとはなかなか考えない。
- ・生活のリズムが整っていないことでゲームをずっとやっている子供が多い。規則正しい生活を送ることが大切だと思う。
- ・目標ができたり、やらなければならないことが多くなったりする中学3年生は、だんだんゲームをしなくなる。
- ・小学生でも自分のやりたいことを考え、そのために何をしたらよいのかを書かせ、それに対して親が関われば生活にリズムができてくると思う。子供にきっかけを与え、それに向かって取り組ませていけばよいと思う。
- ・親は規制をするのではなく、他にやりたいことを見つけてあげることが大切だと思う。
- ・帰宅した後に何をやったかを記録させたらどうか。そうすることでゲームを多くやっていることを気にするのではないか。
- ・今の時代を考えると、スマホが使えない方が問題である。だから、ゲームなどをやらないというのではなく、使い方を考えた方がよいと思う。

このように委員の方からたくさんの意見をいただきました。ゲームは子供も大人も夢中になるように実にうまくできていることを踏まえると、ゲームをやらないのではなく、ゲームとどう付き合っていくかが大切だと思います。協議の中でゲーム依存にならないためのいくつかのポイントが見えてきました。



### ポイント

- 規則正しい生活を送る  
ゲームを自由にやりたいだけやるのではなく、宿題をする時間、食事をする時間、入浴する時間、寝る時間等を生活の中で規則正しく行い、その隙間時間でゲームを行うようにする。
- 時間を大事にする  
学校から帰って自分はどんな時間の使い方をしているかを確認する。帰宅した後にしたことを記録することも有効。
- 自分の好きなことを見つける  
ゲームよりも夢中になれることを見つけることが大切。読書や音楽、工作等、自分の好きなことを見つけられるとよい。
- 自分自身のゲームの使い方を確認する  
ゲーム依存という病気になってしまうと、当然、病院での治療が必要になるので、そのようにならないためにも、まずは自分のゲームの使い方を確認する。そして、ゲームをやる場合は区切りでやめられるようにしていくことが大切。

